

過去班の成果と課題

探究の成果

今年度のテーマを「更科の軌跡(プレゼント)をミライに発信」としたのは、古代から現代にかけての歴史的事象のつながりを考察し、ミライに向けて発信し、更科地域を持続可能な成長をしていきたいという生徒の思いをもとに設定した。フィールドワーク調査に際しては、原始時代は更科地域が海であるか知るための貝層の調査、近代は富田さとにわ耕園内にある原田池の伝承である白蛇伝説の調査、偉人に関しては千脇治郎衛門、更科姫など、最後に現代は、地名、飛び地、年中行事など幅広い時代を意識したフィールドワークの計画を立てた。

貝層の調査では、海であった場所である上泉町で原始時代の貝殻の発掘を行った。当時の古東京湾である可能性を示す、貝殻の発見を行い当時の状況を推測することができた。

原田池の調査については、伝承である白蛇伝説がなぜ言い伝えられているか、現地を見ることで原田池のすり鉢状の形を見て、伝説が作られた経緯を推測することができた。

偉人の調査では、下総騒動の文献調査や、御殿町にある姫池の跡地をめぐるなどして、更科地域の偉人が与えた影響について考察を行った。

地名・飛び地の調査は現地に訪れ、地形を見ることで町名がつけられた状況を推測するとともに、飛び地の場所をインターネットの地図を使うことで見つけ出すことができた。

最後に年中行事の調査では、更科地域で行われていた行事がどのように現在に伝わったかについて、行事を継承していくむずかしさについて考察することができた。

フィールドワークで得た調査結果をまとめ、発表する一連の流れを通して、自らの地域を再発見し、今度につなげていくための方法などを生徒全体で共有することができた。また、文献調査を行ったあとにフィールドワークをすることで、知識をもとにした調査を行うこともできた。また、テーマであるミライへ発信もうつしの祭を通して未来へ継承するための一端を担えた。

生徒の反省から

①良かった点	②改善点
<u>1 現地調査・講話について工夫したこと</u> ・安全第一に調査することができた。 ・自分の調べたいものを計画的に調べることができた。	<u>1 現地調査について来年度の課題</u> ・現地調査の回数を増やすとより詳しく発表できた。 ・調べたいことをより計画的に行う。
<u>2 まとめ方で工夫したこと</u> ・スライドで大切な部分を強調できた。 ・劇よりも伝えられることが増えた。 ・伝えたいことを重点的につくれた。	<u>2 まとめ方で改善したいこと</u> ・スライドの文字の量を少なくして、自分が伝えたい箇所をより強調する。 ・見やすい写真を使う。
<u>3 発表で工夫したこと</u> ・スライドで話すスピードが適切だった。 ・発表の時間が増えて、色々な経験ができた。 ・一人ひとりが活躍でき、自分の伝えたいことを詳しく伝えることができた。	<u>3 発表で改善したいこと</u> ・今年20分だったが、25分くらいあると発表がしやすい。 ・スライドでの発表をより練習する。